

History 若松港築港



大正期の若松港

北九州港に位置する洞海湾・若松港は、背後にある筑豊炭田からの石炭の積出基地として明治23(1890)年以降に開発整備が始まりました。



堀川の川ひらた

当時、筑豊炭田で採掘された石炭は、「川ひらた」と呼ばれる底の浅い小型船で遠賀川(堀川・江川)を下り、洞海湾に運ばれました。この頃の洞海湾は、干潮時はほとんどの地盤が露出するほどの遠浅の内海でした。

工場の近代化が進み石炭需要が増えることにより、筑豊炭田の生産能力も上がり、鉄道輸送も始まりましたが、課題となったのは石炭の海上輸送能力でした。そこで、大型化する船舶に対応するため、港内の浚渫[※]による水深の確保や積出岸壁、貯炭場の整備が進められました。これにより、筑豊炭田から若松への着炭と積出量は大幅に増大し、国内シェアの約50%を占めるまでになりました。

その間、洞海湾には、明治34(1901)年、官営八幡製鉄所が操業を開始し、その浚渫土砂で造成した埋立地には重化学工業を中心に多くの工場が立地するなど、日本の四大工業地帯の一角として発展し、日本の経済成長を支えることとなります。 ※浚渫(しゅんせつ)：水底をさって土砂などを取り除く土木工事

洞海湾の今と昔



明治30年代の洞海湾



現在の洞海湾



明治時代／水深1.5m



現在／水深8.5～10m

土木遺産と一緒に 巡りたい周辺施設

大正期の建物群を中心としたノスタルジックな雰囲気のエリア「若松南海岸通り」。石炭積出港としての若松の歴史を伝える建造物や史料館など、土木遺産を巡りながら一緒に楽しめます。



旧河鉦業若松ビル

■大正8(1919)年竣工

赤煉瓦造りでルネサンス様式を基調とした建物。このエリアのシンボリックな存在です。



石炭会館

(旧若松石炭商同業組合)

■明治38(1905)年竣工

若松区に現存する洋風建築としては最も古い建物。



わかちく史料館

■明治23(1890)年
若松築港会社創立

洞海湾の開発事業と若松の歴史を写真・映像・模型などで楽しめる史料館です。



上野ビル(旧三菱合資会社)

■大正2(1913)年竣工

国の登録有形文化財建造物。映画やCMのロケ地として使われることも。雑貨店やカフェも楽しめます。

若松港築港関連施設群「土木遺産」に関するお問い合わせ先

北九州市 港湾空港局

計画課
クルーズ・交流課

TEL.093-321-5967

TEL.093-321-5939

北九州市印刷物登録番号 第2016009C号(R3.3)

土木遺産

若松港築港 関連施設群

【土木遺産とは】

(公社)土木学会が、橋やトンネル等の土木構造物の保存を目的として創設した認定制度です。令和元(2019)年、北九州市と若松建設(株)が共同申請し、日本の経済発展を支えた洞海湾・若松港の築港に係る6つの施設「若松港築港関連施設群」が認定されました。北九州市では、河内(貯水池)堰堤及び南河内橋、関門トンネル(在来線用)に続き3件目の認定です。

赤い橋のたもとの 海岸ヒストリー



福岡県北九州市 若松南海岸

土木遺産

明治後半の若松港